

テーマ「コロナで増えた女性の自殺」

認定 NPO 法人児童虐待防止全国ネットワーク理事
NPO 法人ファザーリング・ジャパン理事 高祖常子

【討ち入り言：女性と子どもの場を奪うな！】

コロナ禍において「女性の自殺」が増えている。警視庁の発表によると 2020 年 7 月 8 月の女性の自殺者は、前年に比べると 4 割以上増加していた。自殺者は毎年減少傾向だったが、女性の自殺の増加によって 2020 年 8 月の全体の自殺者数は増加となった。

世界的に見ても日本は女性の自殺率が高く、アメリカの 1.5 倍、イギリスの 2 倍とのことで、日本より自殺率が高い国は、韓国など数カ国しかないというデータがある。

日本ではうつ病などが自殺の原因として大きいですが、ヨーロッパではうつ病が増えても自殺が増えるわけではない。つまり、気持ちが落ち込んだときやうつ病に陥ったときに、駆け込めるセーフティネットが脆弱であるということだろう。

小中高生の自殺も増加している。2021 年 7 月には、年間で最多となった 2020 年の同時期を上回っている。文部科学省の分析では「家庭に居場所を感じられない子どもが息苦しい思いをした可能性」「学校での活動を通して目標や達成感を得る機会が失われたこと」「悩みを相談することも難しくなった」などが背景にあるとしている。

もともと多かった男性の自殺だが、男性の自殺率はコロナ禍において急増してはいない。これは、コロナ禍においての「女性や子どものライフスタイル」が大きく変わったことが原因と言えるのではないだろうか。

2020 年の春、コロナ禍と言うことで保育所や幼稚園、子育てひろば、学校が休止した。会社は通常勤務もありつつ、在宅勤務に移行したところもあった。共働き世帯がかなりを占めるようになった日本ではあるが、男性には会社と言う所属があり、仕事があり、働き方が少し変わったただけだった。女性、特に子育て期の女性は、パートナーが在宅勤務になることで子どもを遊ばせる場を奪われてしまった。保育園や子育てひろばなども通園停止や休止になり、一気に行き場を失った。これは、子どものところで記述したこととも、イコールである。コロナはそれぞれの「場」を奪い、コミュニティやセーフティネットの場を奪った。そしてそれが、女性や子どもの自殺率を押し上げたのではないかと分析する。

(参考)

「なぜ女性の自殺は 40%以上も増えたのか？ 専門家が解説する「女性自殺大国」日本の病巣」
文春オンライン (2020/10/3)

「【ルポ】女性の自殺がコロナ禍で急増している。追い詰められたときのセーフティネットは」
婦人公論.jp (2021/8/22)

「働く女性の自殺が増加 21 年版白書、コロナ禍も影響」日本経済新聞 (2021/11/2)

「一人で苦しまないで”子どもの自殺 過去最多の去年を上回る | 新型コロナウイルス」NHK
ニュース (2021/8/26)